

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	029200056		
法人名	(株) 白 菊		
事業所名	グループホーム ふれあいの里		
所在地	青森県東津軽郡今別町大字今別字中沢149-1		
自己評価作成日	令和2年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの今までの暮らしを大切に、安全な環境の中で、毎日楽しく暮らしていけるよう、基本理念を毎日復唱し、常に入居者の方が参加できる生活となるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームで行っている認知症カフェ(オレンジカフェ)は、毎月定例で開催しており、参加者が多く、地域住民同士の繋がりの活性化に重要なイベントの一つとなっている。町で唯一のグループホームのため、地域住民からの期待や信頼が厚く、日頃から町役場や地域包括支援センターと連携して町全体で地域の高齢者を支えているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム単独の基本理念に基づき、日常生活に活かした対応を行い、介護計画から実践に繋げている。理念は毎日唱和している。	ホーム独自で作成している理念を毎日唱和し、理念を共有している。職員は皆理念の持つ意味を考え、日々のサービス提供に反映させるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内イベントの参加や地域医療機関への受診、施設イベントへの招待等により、地域との交流を図り、理解を高めている。	ホーム内で毎月認知症カフェを開催しているほか、地域の行事への参加、高校生の就労体験の受け入れ等を行っており、日頃から地域と積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への散歩や道の駅での外食等、地域に出向き、理解や協力を得ている。ホーム行事の際は、ボランティア等の協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や外出行事、ホーム内行事の様子、社内研修の内容等を伝え、理解と協力を求め、サービスの向上に活かしている。書面にて事前に出欠の確認をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、活発な意見の交換が行われている。ホームの取り組みや外部評価の結果等についても報告しており、委員から出された意見を今後のサービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員になっていただき、報告に対して助言をいただいている。情報提供の協力等、連絡を密にとっている。	運営推進会議には、町役場や地域包括支援センターの職員も参加している。認知症カフェの開催については、町役場と日頃から連絡を取り合っており、日常の課題解決に向けて、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠を行わず、常に見守り、声掛けをしている。社内研修で、身体拘束ゼロの実施を常に教育している。	管理者と職員は、研修等を通じて身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束は行わないという共通の認識で日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待の防止の勉強会を設け、言葉づかい一つでも虐待になる等、小さな虐待も行わないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員で勉強会を行うとともに、研修会への参加を促し、家族への情報提供を欠かさずに行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をかけて契約内容を説明している。重点事項や不安疑問点等については、ゆっくりと時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見をよく傾聴し、運営に関することは細かく説明している。家族会及び面会時に気さくに話しかけやすい雰囲気づくりに努めている。	日々のケアを通じて、利用者から不満や意見を出してもらえるように工夫している。運営推進会議には利用者や家族の代表が参加しており、外部へ意見や要望を話せる機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し、職員間の意見や提案を聞き、反映するように努めている。	ホームでは月1回職員会議を設けており、職員がケアや運営について等の意見を出せる機会としている。出された意見や要望は、必要に応じて日常のケアや施設運営等に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、職員の日々の努力や勤務状況を把握し、常に改善に努めている。また、健康診断にて職員の健康管理を行っているほか、やりがいを感じる職場環境へ配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、毎月社内研修を行っている。職員の研修を受ける機会を確保できるように時間を調整し、仕事の中での疑問や質問に常に助言して対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会(3ヶ月に1回)や地域ケア会議(月1回)へ参加し、意見交換を行う等、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日声掛けや会話をする等、入居者の話を聞いている。不安や要望があるときは、速やかに対応し、入居者が安心した生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に速やかに対応できる体制であることを説明している。電話や手紙で状況報告したり、面会時に相談できる環境を整え、家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を十分に行い、介護計画を作成し、状況に変化が見られた場合は、速やかに変更して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは継続して行っていただいている。できないことは支援し、過度の介助や介護を控え、理念を介護計画に盛り込んで実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の生活状況や通院状況等報告し、入居者の不満を家族と相談しながら解決していく等、理解や協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人知人が気軽に面会できる環境をつくるほか、ホームイベントへの参加を促している。	入居前の生活について利用者、家族から聞き取りし、生活歴や馴染みの関係の把握に努めている。ホームでは、馴染みの理容室等への外出支援を行っており、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々なレクリエーションの工夫をし参加を通して協力し合い、ともに楽しく明るい笑顔で過ごせる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせて支援や相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日会話することで本人の希望や意向を把握し、表情の変化にも注意しながら観察し、支援に向けている。	職員は利用者との日々のコミュニケーションの中から、本人の思いや意向の把握に努めている。意向の把握が難しい場合は、家族や担当職員からの情報を基に話し合い、利用者本位の視点に立ち、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族、関係者から以前の生活状況や状態を聞き取り、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の週間予定のチェックにて、一人ひとりの1日の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で毎月カンファレスを行い、一人ひとりの生活の状況に沿ったケアの見直しや対応方法を検討し、介護計画に取り入れている。家族への確認や報告を必ず行っている。	介護計画は本人及び家族、職員等からの意見を反映して作成されており、個別で具体的な計画となっている。本人の状態に変化があったときは、その都度見直しを行い、現状にあった介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースや日報へ具体的な記録をして実践(内服等は内服時間を記入するなど)をしている。入居者ごとの担当が情報共有のため、発信に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診に頼らず、入居者毎の主治医へ受診を継続して行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ民生委員や地域の方に出席してもらっている。また、地域ケア会議へ参加し、外部のケアマネージャーや地域包括支援センター職員と連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者毎の主治医へ外来受診の支援をしている。	入居時にこれまでの通院歴を把握し、入居後も希望する医療機関を受診できるように支援している。希望があれば歯科や眼科への通院も行っており、通院方法や結果の伝達方法については利用者と家族の納得を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告を欠かさず(不在時はケアマネージャー)、入居者の健康管理に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や入院中の情報交換を行い、家族の不安に応えられるよう、医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と事前に十分な話し合いを行っており、重篤化した際の在り方の指針を定め、家族の理解を求めている。	入居時に重度化した場合や看取りの対応について説明しており、利用者本人や家族等と話し合いをし、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個別の発作時の対応ができるように指導している。一定の訓練は勉強会に取り入れ、年1回の救急救命講習には、より多くの職員が参加できるように調整している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対して定期的な訓練(年2回)を実施している。地域協力員との体制は運営推進会議を通して整えている。防災用品は別棟に用意している。	年2回避難訓練を行っており、地域住民や運営推進会議の委員に参加の協力依頼をしている。災害発生時に備え、非常食や暖房用具等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会で常に確認や改善を行っている。	利用者を「さん」付けで呼び、一人ひとりの人格を尊重したケアを心掛けている。職員は、研修や勉強会を通じて守秘義務や個人情報の取扱いについて理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に声掛けをして、希望や訴えがしやすい環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせたケアの介護計画を立てている。毎日のコミュニケーションの中から、本人の希望を聞く体制で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに応じて、衣服を選んでもらい、気候に合わないときは声掛けし、交換を促している。服飾品は好みの物をつけてもらい、危険が無い確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みや希望に合わせて提供している。楽しく食事ができるよう、食事中はテレビを消し、音楽を流して会話ができる環境を整えている。	職員が献立を作成しており、利用者の好みを把握し、嫌いな物がある場合は代替食を提供している。できるだけ利用者全員に食材の下ごしらえを一緒に行ってもらおう等、準備の時間も含めて食事の時間を楽しんでもらえるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立で、美味しく食事ができる量で提供を行っている。水分は自室でも摂りやすいようにペットボトルを各自に持たせて水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりへの声掛け、見守り、一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導や見守り、一部介助を行っている。トイレ排泄またはポータブルトイレでの排泄の継続を介護計画に組み入れている。	職員は利用者一人ひとりの排泄記録を作成し、排泄パターンを把握することで、事前に誘導する等の排泄介助を行っている。利用者の意向を確認しながら、随時見直しを行っており、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の野菜や果物の取り入れや起床時の水分補給を促している。下剤は状態に応じて調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	体調に不安なく、定期的に入浴を楽しめる支援を行っている。安全な入浴を提供できるよう、常に職員2人体制で支援を行っている。	入浴は週2回行い、利用者一人ひとりの入浴習慣、入浴方法等の意向を取り入れて支援している。入浴拒否がある利用者に対しては、介護者や曜日を変更する等の工夫をし、利用者が楽しく入浴できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けや見守りをして休息や安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬時間を記入して、職員が声出し確認をして誤薬の防止を行っている。常に状態確認を行って副作用に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションにぬり絵等の手作業やアップル体操等の軽運動を取り入れている。自由時間には編み物や手芸など個々の趣味を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日は、声掛けをして前庭の散歩を促している。外出行事は月1回のペースで計画し、遠方や近場等、楽しみを持てる機会を設けている。	コロナ禍だが、できるだけ利用者の楽しみや気分転換につながるよう定期的に外出行事を企画し、実施している。また、家族の協力も得て、利用者の行きたい場所へ出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者と家族の意向を伺ったうえで、少額を所持してもらい、外出時に自由に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が来たときは、必ず本人と話ができる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂の使用時間等を設けていないため、好きなときに居間にいたり、自室で過ごすことができる環境を作っている。	利用者は、ホールでテーブルを囲んで会話を楽しみながら、ゆったりとした気分で過ごしている。ホールや廊下には手作りの作品が飾られているほか、窓から見える景色は緑豊かで、利用者は四季折々の自然を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置し、雑談したり居室以外で一休みできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた愛用の物を身の回りに置き、安心した生活を送れるよう支援している。	利用者が入居前から使用していた馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけており、家族の写真や位牌等の持ち込みがある。その人らしく穏やかに過ごせる部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境整備を心掛け、自立した生活が送れるように日々努めている。		